

2つの日本語版効用値尺度（EQ-5DとHUI3）についての信頼性の検討

新潟医療福祉大学 作業療法学科 泉 良太
能登真一
杏林大学 上村隆元

【背景】

健康関連 QOL（以下、HRQL）の中でも臨床経済学に利用が可能な効用値を測定することのできるツールとして、EuroQol（以下、EQ-5D）や Health Utilities Index Mark III（以下、HUI3）、SF-6D 等が世界中で汎用されているが、現在、日本語版として利用可能な尺度は、EQ-5D と HUI3 に限られている。これらの効用値尺度において、海外では、各尺度間の比較検討が盛んで、効用値尺度における信頼性の検討がされている。最近の研究では、再テスト法以外にも、級内相関係数（以下、ICC）を用いて一致度（agreement）を調査し、信頼性を確認する方法が散見される。しかし、日本では、EQ-5D、HUI3 の両尺度において、信頼性のデータ蓄積は途上といえる。

以上のような背景を踏まえ、本研究ではリハビリテーションを受けている患者の効用値をEQ-5DとHUI3の2つの尺度で比較し、信頼性の検証を行った。

【方法】

(1) 対象

対象者は、入院または外来でリハビリテーションを受けているものとした。除外基準としては、本人回答が困難である、昏睡、失語症、認知症、認知障害があるものとした。

調査方法はEQ-5DとHUI3を用いて、効用値を評価した。評価は本人回答（以下、self）と現場の療法士による代理人回答（以下、proxy）を行い、対象者に視覚障害、聴覚障害などがある場合には療法士が補助することを許可した。評価は初期評価（リハビリテーション開始時、手術患者に関しては手術後）と再評価（1カ月後）を行った。

(2) 効用値測定

効用値は死亡を0、完全な健康を1.0とした間隔尺度である。EQ-5Dは、移動の程度、身の回りの管理、ふだんの活動、痛み/不快感、不安/ふさぎ込みの5項目を3段階で評価することができる。一方、HUI3は8つの寄与領域ごとに用意された5ないしは6つの選択肢の組み合わせによって構成されている。8つの寄与領域とは、視覚、聴覚、発話、移動、手先の使用、感情、認知、疼痛である。また、効用値は「死」よりも悪い状態についてマイナス値で示すことがあり、その最低値は、日本語版EQ-5Dでは-0.111であり、HUI3では-0.36である。

(3) 統計的手法

統計的手法については、ノンパラメトリック法を用いた。信頼性の指標には一致に関する信頼性を調査した。EQ-5D

とHUI3間ではEQ-5Dを基準とした同等的信頼性、selfとproxy間では評価者間信頼性を調査し、両信頼性ともに、ICCを用いた。

(4) インフォームドコンセント

本研究の実施に当たっては、紙面上で本人または家族に説明を行い、同意を得た。また、新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得た。

【結果】

対象135名の平均年齢は59.8歳、性別の内訳は男性55名、女性80名であった。

(1) 本人回答と代理人回答での効用値の比較

はじめに、初期評価時のEQ-5DとHUI3についてであるが、EQ-5Dがselfとproxyの差が0.02、HUI3が0.01であり、両尺度ともに有意な差は認めなかった。次に再評価時では、EQ-5Dがselfとproxyの差が-0.04 ($p=0.009$)、HUI3が-0.04 ($p=0.032$)であり、両尺度ともにproxyの方が有意に高値を示した。

ICCは、初期評価時のEQ-5D (self) とEQ-5D (proxy) で0.77 (95%CI ; 0.69-0.83)、HUI3 (self) とHUI3 (proxy) で0.76 (95%CI ; 0.68-0.83)であり、fair~good agreementであった。再評価時のEQ-5D (self) とEQ-5D (proxy) では0.55 (95%CI ; 0.41-0.67)、HUI3 (self) とHUI3 (proxy) で0.74 (95%CI ; 0.65-0.82)であり、fair~good agreementとなった。再評価時のEQ-5Dは0.55と低い値を示した。

(2) EQ-5DとHUI3の関係

EQ-5DとHUI3間のICCについては、初期評価時のEQ-5D (self) とHUI3 (self) で0.60 (95%CI ; 0.42-0.72)、EQ-5D (proxy) とHUI3 (proxy) で0.67 (95%CI ; 0.52-0.77)であり、fair~good agreementであった。再評価時のEQ-5D (self) とHUI3 (self) では0.55 (95%CI ; 0.36-0.69)、EQ-5D (proxy) とHUI3 (proxy) で0.51 (95%CI ; 0.31-0.66)であり、fair~good agreementとなった。初期評価時よりも再評価時に低い値を示した。

【まとめ】

本研究では、日本語版EQ-5Dと日本語版HUI3における信頼性の検討を目的に、selfとproxy間、EQ-5DとHUI3間の一致度を調査した。その結果、selfによる評価と同様に、proxyによる評価でも、信頼性があることが示され、日本語版EQ-5Dと日本語版HUI3の信頼性が確認された。